



# KADENA SKOSHI

SEP 2011

Vol. 36



第18航空団広報局発行



## 第12回嘉手納スペシャルオリンピックス ボウリング競技会

2011 KADENA SPECIAL OLYMPICS BOWLING GAME

第18航空団広報局

迷走停滞していた台風15号の影響で開催できるか心配されましたが、今年で12回目を迎えた嘉手納スペシャルオリンピックス、ボウリング競技会が予定通り9月17日(土)に北谷町シーサイドボウルミハマで無事開催されました。

時折振る激しい雨にも関わらずアスリート達が続々と会場にやって来くると、朝早くから集まり、彼らの到着を静かに待っていたボランティア達もキビキビと活動をはじめ、会場は俄かに活気つき、第18航空団副司令官マーティン大佐の挨拶のあと一斉に競技が始まりました。

今年は第1部、第2部合わせて180人余の選手(米国防省立小中高校の生徒13人含む)が競技に参加し、日本人通訳ボランティア、米国人ボランティア合わせて約120人が競技会を支えました。米国人ボランティアの中には、過去数年嘉手納スペシャルオリンピックスのボランティアを続け、最初に知り合ったアスリートに今年もボランティアとして付いて毎年応援し続けている人もおり、アスリートも競技に参加するだけでなく、この競技会が再会の場にもなっているようです。

一生懸命競技をするアスリート達、言葉が伝わらなくても身振り手振りで声援を送るボランティア達、両方の顔には素敵な笑顔が溢れています。

第12回本大会は、11月5日(土曜日)に嘉手納基地にて開催されます。



(写真提供:チップ・スタイル氏)

2011 KADENA SPECIAL OLYMPICS



## CONTENTS

第12回嘉手納スペシャルオリンピックス ボウリング競技会

嘉手納外語塾生と第18航空団、インターンシップで絆を深める

嘉手納基地でのインターンシップを終えて

嘉手納基地内のリサイクル・省エネ対策を地元業者に紹介

9月11日のテロの追悼式

第64回米国空軍創設記念祝賀会の様子

サービス・サルート



## 嘉手納外語塾生と第18航空団、 インターンシップで絆を深める

Kadena Language Institute,  
18th Wing Airmen sew seeds of solidarity

第18航空団広報局 ニコール・ウィリアムズ



(米空軍：ラキーシャ・クローリー等軍曹撮影)



(写真提供：嘉手納外語塾)



(米空軍：ニコール・ウィリアムズ撮影)



(米空軍：ニコール・ウィリアムズ撮影)



(米空軍：ラキーシャ・クローリー等軍曹撮影)

(仮訳) 2011年9月9日、嘉手納町立外語塾生11名は4週間に渡る嘉手納基地でのインターンシップを終えました。塾生にとっては、長くも短くも感じる4週間となりました。嘉手納外語塾2年生を対象に、英会話力の向上を目的としたこのインターンシッププログラムは、第18航空団と嘉手納外語塾が共同で12年前から実施しています。

今回のインターンシップは8月16日から開始され、初日には第18航空団広報室からオリエンテーションを受けた後、インターン生は嘉手納基地第18任務支援群司令官のコンスタンティーン大佐と同群副司令官のポラック中佐と一緒に昼食をとりながら、研修をまえに激励を受けました。昼食後、いよいよインターン生の研修が各職場で始まりました。

今回、外語塾生は基地内のシリング・コミュニティー・センター、オートホビーセンター（自動車整備工場）、アーツ＆クラフト、ライズナー・フィットネス・センター、消防署、第18通信中隊、法務部等を含め、様々な事務所や施設で研修を行いました。研修先に関わらず、各インターン生は英語を使う環境で、職場のスタッフと一緒に働き、さらに接客業務を行う機会を得ました。

マーケティング・オフィスでインターン生として研修した喜久川莉菜さんは「事務所の方にはとても親切に会話を通して英語を教えて下さいました。ディレクターのケン・ロビラートさんと仕事をするのが楽しかったし、色々なことを学ばせてもらいました。」と感想を述べました。シリング・コミュニティー・センターでは、吉見優希さんが研修し、主に接客業務を行いました。電話の応対をはじめ、沖縄に着任したばかりの米軍関係者へ沖縄の観光地等に関する情報を提供したりしました。「優希さんは親切で、スタッフの一員として、とても良く働いてもらいました。同じ仕事を繰り返すうちに、彼女の英会話力の上達を感じることができました。」と話すのはシリングのディレクターであるケイト・ラーソンさん。インターンシップも後半になるにつれ、初日に比べるとインターン生の英会話は向上し、英語に加え、米国文化や米国特有のビジネスマナーなども学びました。



(写真提供：嘉手納外語塾)

インターンシップ最終日には塾生のために送別会が行われ、受け入れを行った各職場の上司、インターン生のご父兄、外語塾の講師の方々が集まり、インターン生の成果を祝しました。送別会の中で、各インターン生はインターンシップを経ての経験や学んだ事を英語と日本語両方でスピーチを行いました。

研修を行った2年生は来年3月に嘉手納外語塾から卒業し、新たな門出を迎えます。

## 嘉手納基地でのインターンシップを終えて

嘉手納外語塾2年 喜屋武隆之介



私は将来、ホテルのコンシェルジュになりたいと思っていて、インターンシップ先をホテル関係の仕事を希望し、基地内のホテル業務を運営しているショウグン・インで受け入れてもらうことになりました。



ショウグン・インでは多くのことを学ぶことができました。フロントデスクの仕事はもちろん、新しいお客様を受け入れる準備や飲み物の補充のため各部屋をチェックしに行ったり、リザベーションルームに行き電話で予約を受け付ける仕事を直に見たりと直接お客様と接する仕事ではなく、後ろでホテルを支える仕事をたくさん体験させていただきました。

私はこのインターンシップを通して大切なことを学びました。それは、私が作業員のタイムカードの作成の仕事を任された時、私は名前のスペルミスをしてしまい、どう対処していいか分からなかつたのですが、担当者に自分のミスを報告したところ、対処法を丁寧に教えてもらい、ミスを報告する大切さを学ぶことができました。

私が社会人の一員になった時、この経験を活かしていきたいと思っています。

**PIZZA! with Col Constantine!**



at Base  
Fire Station



**Arts & Crafts**



**KADENA  
LANGUAGE  
INSTITUTE**



(ピザランチの写真、米空軍：ニコール・ウィリアムズ撮影、他の写真は全て、嘉手納外語塾提供)

## 嘉手納基地内のリサイクル・省エネ対策を地元業者に紹介

第18航空団広報局



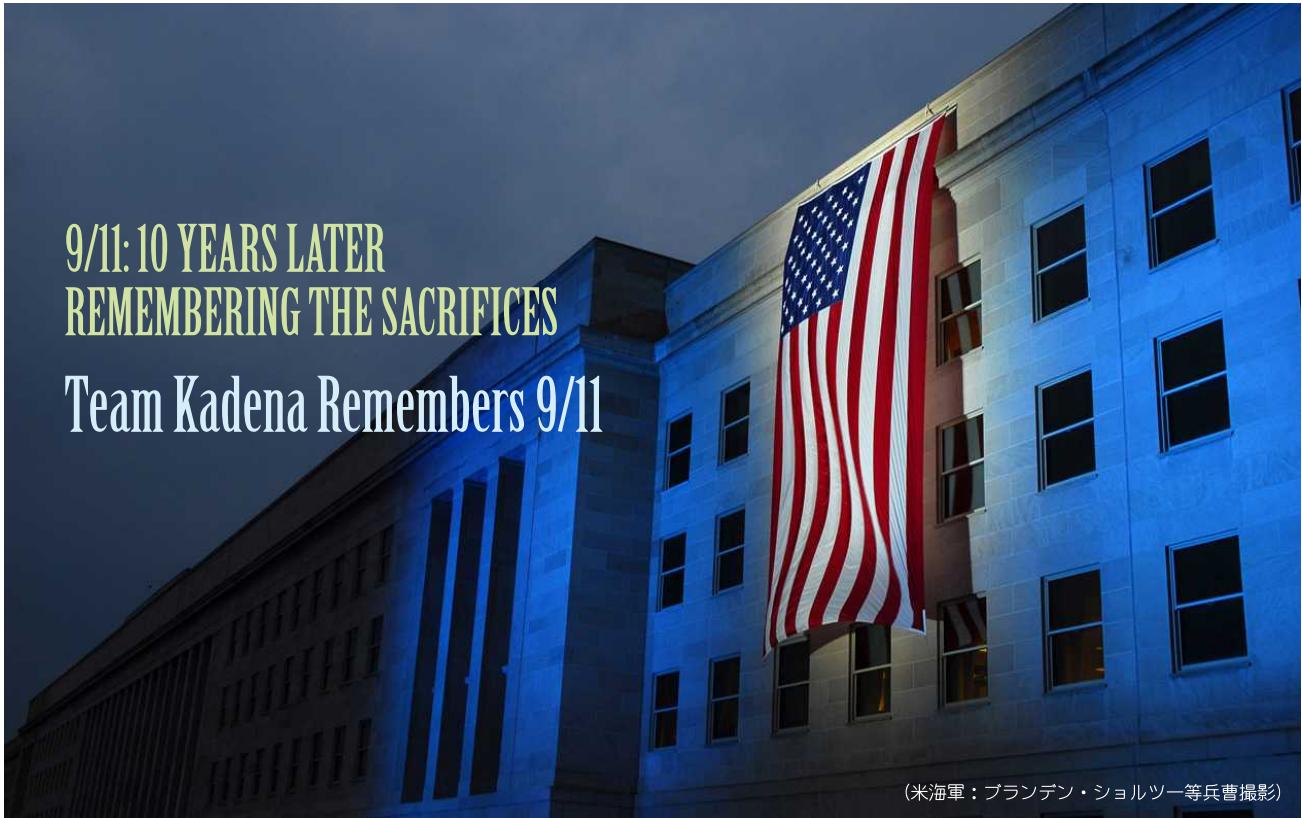
2011年9月15日、第18航空団広報渉外部は、地元沖縄の業者を対象に、省エネ 環境関連施設の紹介を目的とした視察ツアーを実施しました。財団法人 沖縄県産業振興公社の協力により、地元業者約20名がこの視察に参加しました。参加者は、嘉手納基地内のリサイクルセンターを見学した後、担当者から同センターの運用について説明を受けました。第718施設中隊リサイクルマネージャーのミシェル・ウォルトン

さんが、基地内から集められたダンボールなどの紙類、アルミ缶、プラスチック製品、電化製品、使用済みの食用油等、扱うリサイクル品を紹介し、それらを買い取る業者が入札で決定し発注がなされる経緯を説明しました。

省エネ対策については、第718施設中隊のエネルギー・マネージャーであるマイケル・ギルバートさんが、嘉手納基地での省エネ対策や基地内で予定されているソーラーパネル設置プロジェクトなどの説明がありました。その後の質疑応答では「リサイクルとして回収されたガラスはどのくらい集まりますか」という質問に「月平均で32,000Kg回収されます」や、参加者から「ボイラーカラ発生する熱源の有効利用について」など質問もあり、活発な意見交換が行われました。



(写真全て、米空軍：ジャービー・ワレス上等兵撮影)



## 9月11日のテロの追悼式

9月12日、2001年9月11日に発生した同時多発テロの犠牲者のための追悼式が、第18航空団司令部の正面広場で行われました。今年は10周年目にあたりました。このテロでは、世界貿易センターと国防省の建物がテロの攻撃を受け、大人と子供を含むおよそ3000人が犠牲となりました。

追悼記念のイベントとして、9月9日に300人以上のランナーが、10キロのコースを走りました。

第18航空団広報局



# 2011 U.S. AIR FORCE BALL



## 第64回米国空軍創設記念祝賀会の様子

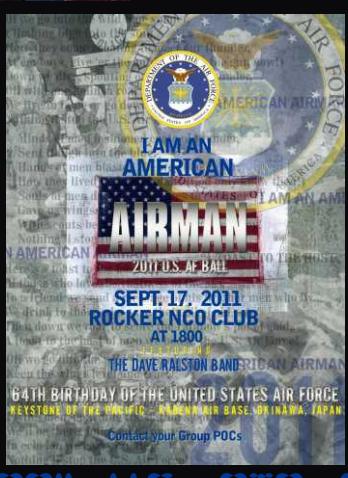
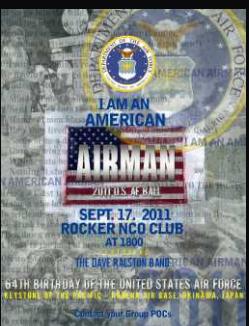
2011年9月、嘉手納基地にて

2011 U.S. AIR FORCE BALL

2011 U.S. AIR FORCE BALL

2011 U.S. AIR FORCE BALL

2011 U.S. AIR FORCE BALL  
TEAM KADENA CELEBRATE 64 TH BIRTHDAY OF THE U.S. AIR FORCE



(写真全て、米空軍：ブルーク・ビアーズ上等兵撮影)

2011 U.S. AIR FORCE BALL  
TEAM KADENA CELEBRATE 64 TH BIRTHDAY OF THE U.S. AIR FORCE



## 40TH ANNUAL



## SERVICE THE USO, OKINAWA, JAPAN SALUTE



(式典の写真全て、米空軍：ブルーク・ビアーズ上等兵撮影)



United Service Organization（米国サービス機関）が主催したUSO サービス・サルートが8月27日海兵隊将校クラブで開催されました。USOは世界中にいる米軍人とその家族の生活水準向上、また米軍社会とそれを支援する民間地域との協力的な関係を築き・維持するために貢献する団体です。沖縄におけるUSO サービス・サルートは、在沖縄米軍人、また日本の自衛官の中から選ばれた優秀軍人を称える行事です。在沖縄空軍、陸軍、海軍、海兵隊、また陸上・海上・航空自衛隊から各司令官が、また各々の軍の被表彰者、本事業を支援する協力団体・企業、およそ400名の人々が集いました。表彰を受けた軍人・自衛官7名は、日米両国の国益、安全保障を保つため、各々の分野で、各々の任務を地道に遂行し、その功績に対し表彰されました。まさにこのタイトルにあるようにsalute敬礼！を受けるにふさわしい方々でした。

ここで嘉手納基地第18航空団から表彰を受けたケリー2等軍曹を紹介します。ケリー2等軍曹は、2006年に空軍に入隊。テキサス州ラックランド空軍基地にて、基礎軍事訓練を修了後、ニューメキシコ州カートランド空軍基地にて、技能訓練に参加しました。軍人としての最初の配属は、2007年ジョージア州ムーディ空軍基地第347救難中隊でした。2009年、現在の所属部隊である第33救難中隊に再配属され、主任飛行技師教官として選ばれました。2度にわたる同部隊への配属期間中、ケリー2等軍曹は、不朽の自由作戦及びイラクの自由

作戦に5回派遣されました。前回の派遣期間中、飛行任務を61時間こなし、43回に及ぶ不朽の自由任務作戦支援に出動しました。

本任務は、統合軍航空混成司令官戦闘搜索救助・負傷者救助及び連合軍活動の一部で、全体として136人の人命を救助しました。

また対反乱作戦を支援するにあたり医療搬送任務を12回、交戦中の状況下でホイスト（ロープ巻上げ機）を使用した吊り上げ救出を21回実行し、42人の人命を救助しました。2010年、航空兵リー



ダーシップ学校に在籍中、ケリー2等軍曹は、ジョン・レビトウ賞という空軍の軍事専門教育機関における最高の優秀賞を授与されました。